

地域コーディネーター養成講座 ぎのわん地域づくり塾 2019

最終発表会 各チーム発表資料

嘉数区の皆さんに向けた最終発表

1. 嘉数高台公園の活用

嘉数高台公園を建て直す隊

2. 子どもの居場所をつくろう！！

わらば～見守り隊

3. ジュニア・エイサー隊結成！

E～ね！かかずっ子！

4. E-スポーツを通じた嘉数公民館のサロン化

嘉数 E-スポーツ普及会

5. 嘉数高台公園の活用と平和の語り部の継承

ねだて

※各チーム発表時間 7分

会場：社会福祉協議会
日時：2019年10月5日(土)

タイトル：【嘉数高台公園の活用】

提案する相手：嘉数区子ども会・育成会・市内小中学校・宜野湾市

チーム情報：チーム名「嘉数高台公園を立て直す隊」

メンバー：仲本雄哉・石川楓音・花城小百合・崎原理恵・荒尾みどり・
長濱美津枝・伊波稔・伊佐哲雄

今までの地域づくり塾のフィールドワークやグループ学習を通して、嘉数高台公園について気付いた点があります。

平和学習の場として、基地問題を学ぶ場として県内外の方々に利用されており、公園としてはすでに活用されています。今回の「嘉数高台公園の活用」は、その一歩先である、「もっと有意義に活用」ということを念頭において考えました。

理由としては、「多くの人が平和学習の場として利用してはいるが、どれだけの人が嘉数の歴史を吸収しているのかが分からない」という伊波自治会長の意見がでたためです。上記の理由から私達のグループは「嘉数高台公園をもっと有意義に利用するために」ということを目的におきました。

そして、今回の地域づくり塾やフィールドワークを通して嘉数高台公園には、4つの顔があると考えました。

- (1) 市民の憩いの場
- (2) 沖縄の在日海兵隊基地の問題を学ぶ場
- (3) 平和学習の場
- (4) 上記の(2)(3)を目的とした観光地

嘉数高台公園の活用とは、上記の4項目の拡充に優先順位をつけて取り掛かる必要があると考え、改めて現在の嘉数高台公園を見た時

1. 基地や沖縄戦を学ぶとして観光地化しているが、ただ見て帰るだけの場所になっている。
2. 次世代を担う子ども達の平和学習の教材の場となっているが、資料が充分でなくどれだけ理解して帰っていったかが解からない。
3. 高台公園は、ゲートボールや、青年会のエイサーに練習、子ども隊のラジオ体操、としてすでに活用されており、新設された遊具もある。つまり、市民の憩いの場として拡充は先行されている。このように感じました。

嘉数高台公園をもっと有意義に活用するための、一番の優先順位はどれかと考えた時、私たちは「米軍基地を学ぶ場、平和学習の場」としての嘉数高台公園の拡充を考えました。

○わたくしたちが提案したいと考えている事

【公園内に戦争や基地関連の説明版の QR コード化】

若い世代の情報収集手段として身近なものは、スマートフォンである事から、スマートフォンを活用した平和学習や基地問題学習を考えます。

設置した QR コードを読み取る事で、写真や動画、資料が掲載された HP を閲覧できるようにします。QR コードのメリットは5つあります。

- (1) 従来の説明版より設置のコストや時間を大幅に削減できる
- (2) ネットだと多言語対応しやすく、外国人の利用促進も図れる
- (3) 文字だけよりも写真や動画など視覚情報があった方が記憶に残りやすい
- (4) 音声だと視覚障害者の方のバリアフリーにもなる
- (5) 公園の景観をなるべく崩さない。

「平和学習を語り継ぐ後継者がいない」「後継者は20代でもいい」と伊波先生がおっしゃっていたので、今の小学生から長い目で育成する事を見据えると、なじみのあるスマートフォンやネットを利用した後継者育成ということも QR コード導入の目的です。

【QR コード導入でどのように地域住民をまきこむのか】

QR コード導入にあたって、まず嘉数地域の戦争体験の聞き取り調査や、情報収集が必要です。その情報収集の一環を小中校生の授業に盛り込みます。

今まで、語り部の話を聞く、受動型の平和学習から能動型の平和学習に移行することができます。例えば、戦争体験者の話を地域の子ども達がインタビューをし、その映像をネットに掲載し QR コードでリンク先に飛べるようにします。

地域の子ども達は、能動型の平和学習ができ、ネットに掲載される事で達成感が得られる。宜野湾市の平和学習の資料を地域の子ども達が作るようになります。

QR コード導入はだれもが戦争や平和学習の語り部となる可能性があると考えます。

また、その映像を地域外、もしくは県外から来た人達が嘉数公園を訪れ QR コードを読み取れば、平和学習の教材となると考えます。

また、一度作成した情報をそのままにするのではなく、定期的に更新することで一過性にならないと考えます。

情報収集を社会見学に盛り込み、現地フィールドワークにより、地域との繋がりが生まれ、地域活動も活発になると期待されます。

たとえば、活動の輪を花の植樹や緑化活動につなげることで、嘉数高台公園のイメージが、沖縄戦の激戦地としての公園から、平和の象徴としての花や緑に囲まれた憩いの場としての明るい公園とイメージも再構築できると考えます。

子どもの居場所をつくろう！！

チーム名：わらば～見守り隊

- 提案する相手：
嘉数区自治会、嘉数区子ども会、ていがね一会、青年会、民生委員
琉球大学、沖縄国際大学
- チームメンバー：
伊波清正 /米須和美 /皿山佳英 /知念小春 /金城さつき
- チームで設定した嘉数区の困り事
嘉数小学校で学校地域コーディネーターの新垣まゆみさんより出された、放課後に子どもたちの居場所がないという課題を聞き、その課題に取り組もうと考えた。
フィールドワークや地域の方々へのインタビューでは、子ども会を中心に子ども達が活発に活動している様子が伺え、『宜野湾市福祉保健の概要』（第2章7頁）では嘉数区は母子世帯が0、被保護世帯も喜友名区に次いで低い割合となっているため、課題の詳細がなかなかつかめずにいた。
毎週水曜日に嘉数小学校で開催されている子ども教室に直接伺って様子を拝見する（タイミングが合わず断念）など、より実態を掴むためのリサーチが必要だったと思うが、私たちが見落としていることがあるのではないかということから、当初設定した課題子どもの居場所について考えることとした。
- 地域課題（困り事）の解決方法
目的：
① 放課後、塾や習い事に行っていない子どもたちの居場所を作る。
② 居場所を作るために関わる人々が緩やかな繋がりができ、多世代交流の場となる。
③ 子どもの活動の中に地域の高齢者との関わる機会を設ける。→独居世帯の安全確認
いつ：平日の放課後の時間帯（4時～6時）
どこで：嘉数区公民館の昼間、体育館
誰が：上記提案先

*子どもたちの活動を見守るコーディネーターの役割を担う人がいるといいのではないか。

誰と：上記提案先の見守る人々に加え、

- ① 子どもたちの活動を見守るために、嘉数区の中学生、高校生有志がサポート。
- ② 必要に応じて、琉球大学や沖縄国際大学の学生ボランティアを募る。

何をする：

- ・学習支援（宿題やテスト対策）
- ・遊び（勉強が終わった子たちは体育館へGO!）
- ・ゆんたく

少し、活動を発展させ・・・

- ・嘉数区高齢者独居世帯の訪問（子どもたちの活動＋見守り活動）

予算：宜野湾市地域づくり助成を活用。

● 実現する道のり・プロセス

- ・より実態を掴むためのリサーチ（子どもの居場所が必要かどうか）

→子ども教室の見学等

- ・自治会がどのように子どもの居場所を運営しているのか。

→自治会で子どもの居場所を運営している我如古自治会こどもの居場所「ゆーでいき家」や、普天間3区自治会こどもの居場所などの活動が参考になるのではないか。

- ・嘉数区での実現性の話し合い。

- ・助成金の申請。

1、提案する相手方

嘉数区自治会（ていがね会、青年会、子ども会・子ども育成会）

2、チームメンバー

上原 一哲 ・ 嵩元 大貴 ・ 西 英理 ・ 浜川 ルミ子 ・ 宮城 薫 （50音順）

3、チームで設定した「嘉数区の地域課題」

課題；

- ① 子ども会は対象年齢が小学生まで、青年会は高校生からと決められており、中学生世代をフォローする子どもの居場所がない（子ども会から青年会をつなぐ団体が無い。）
- ② 現在、青年会を中心に地域伝統のエイサーを行っているが、加入者数の減少から継承が難しくなりつつある。
- ③ 子ども会育成会は子ども会の保護者を中心に構成されているが、子どもが小学校を卒業すると同時に子ども会も卒業してしまうため、地域活動に関わってくれる方が自治会を離れてしまう。

課題設定の理由；

地域インタビューをしていく中で、子ども育成会と青年会から、「子ども会は、その対象年齢が主に小学生までとなっている。また、青年会は高校生からが対象とされているので、その中間の中学生世代を対象とした受け皿がない」、「子ども会を卒業して、いったん自治会の活動から離れてしまうと、青年会に入る人も少なくなり、活動が成り立ちにくい」、「子ども会もだが、子ども育成会も、子どもが小学校卒業と同時にその保護者も活動から離れるため、地域活動の担い手が少なくなると感じていた」、「嘉数区のエイサーは19区から学び、これまで続けてきたもので、地域としても非常に誇りに感じている活動だが、その担い手の確保が難しく、継承に課題を感じている」といった声が聞かれた。

また、壮年世代を中心に結成している「ていがね会」からは、「地域のために役に立ちたいということから結成し、当初は高齢独居家庭の清掃等を活動の内容として考えていたが、実際には、遠慮があるのか依頼する地域の方があまりおらず、今後の活動について模索中である」という声もあった。

こういった背景から、子ども会から青年会をつなぐ中学生を中心とした団体（居場所）を作り、そこでていがね会がサポートに入ることにより、嘉数区における住民活動をさらに活性化し、また住民同士のつながりをより強固にできるのではないかと考えた。

また、中学生世代の居場所を地域の中に作るにより、部活動を行っていない生徒や、不登校等で学校に行きづらくなっている子どもでも、気軽に参加できる居場所ができる。更には、地域が誇りに感じ、伝承しているエイサーを活動の中核にすることで、子ども自身が地域の一員として存在している実感を持たせ、それにより子どもの自己肯定感も高めることができるのではないかと考えた。

4、地域課題の解決方法

目的；中学生世代の居場所をつくる。

地域の伝統行事であるエイサーの担い手育成。

いつ；月1回以上の活動

どこで；嘉数区自治会公民館及び、嘉数高台公園・比屋良川公園

誰が；ジュニア・エイサー隊（中学生）、青年会（中学生の指導役）、ていがね会及び子ども育成会（中学生の活動をサポート）

誰と（連携先）；嘉数区自治会、子ども会、嘉数中学校

何をするか；エイサー活動等を通しての中学生世代の居場所づくり、地域伝統のエイサーの継承
予算にかかる財源；『宜野湾市ボランティア団体等が実施する子どもの居場所運営事業補助金』、『宜野湾市地域づくり助成金』等の活用を検討。（補助金の公募時期に注意する必要あり。）

5、実現する道のり、プロセス

- ① ていがね会、子ども会及び子ども育成会、青年会間において、地域課題や今回の企画提案について目指すところを共有。
- ② ニーズ調査の実施（エイサーをやりたい中学生がどの程度いるのか、活動があれば参加したいか等の意向調査。現子ども会の6年生や嘉数中の地域生徒会に協力を仰いでアンケートを行う。）
- ③ ②の調査結果を踏まえて、再度情報共有し、具体的な活動内容・年間計画・担い手確保及び体制づくり・予算等の詳細を詰める。
- ④ 宜野湾市が実施する『ボランティア団体等が実施する子どもの居場所運営事業補助金』や『宜野湾市地域づくり助成金』等に応募し、活動にかかる財源を確保する。
- ⑤ 実施が決定したら地域内や学校で周知（中学校でチラシ配布等）。
- ⑥ 活動スタート！

6、見込まれる効果

- ① 中学生世代の居場所ができることで子ども達の活動の選択肢が増える。と同時に、子どもの健全育成の場となる。
- ② 子ども育成会の保護者をそのまま自治会活動に残ってもらう仕組みを作ることで、地域活動の担い手が育成できる。
- ③ 嘉数区が誇りとしているエイサーを、継承していくことができる。

7、その他の提案

- エイサーシーズン以外の活動も充実させる必要もある。嘉数高台公園や比屋良川公園における緑化活動ボランティアや、子ども達にニーズ調査をしたうえで、意向に沿った活動を中心に年間活動計画を立てていく（担い手確保をしたうえで、学習支援、食事支援等のメニューを取り入れてもよいかと考えられる）。
- 資金造成については、市の補助金を活用する他、夏祭りなどで、制服や子ども服などのバザーを行い、地域全体の子育て支援を進めながら自治会加入のきっかけ作りを行っていく。

E-スポーツを通じた嘉数公民館のサロン化

2019/10/05

READER：城間 浩

MEMBER：久保田 清、平良 忍、新垣 真由美
安里 純也、伊藤 恩希、安里 花織

嘉数自治会長及び嘉数区の各組織会長様

私達チーム名「嘉数 e-スポーツ普及会（F チーム）」はぎのわん地域づくり塾 2019 に参加し、地域コーディネーターの基礎知識を学びながら、嘉数区の歴史、概要、そして困りごと（地域課題）を聴講しました。また実際に嘉数区内に足を運び住民の方々のお話を直接伺い、困りごとの原因の考察をし、どのようなアプローチが解決に向けた近道になるのか検討致しました。本レポートが嘉数区の課題解決の一助になれば幸いです。

私達が設定した地域課題

『嘉数高台公園の活用と高齢者見守り』

他にも嘉数区には重要課題がありますが、この二つの課題も同様だと考えます。

①嘉数高台公園の活用

素晴らしい資源である嘉数高台公園ですが、その資源は私達が思っているよりももっと価値があるのではないのでしょうか。区内外から更に多くの人々が訪れ活気のある公園になれば目に見える効果が期待できます。それは他の課題への取り組み意欲にも繋がると考えます。

②高齢者見守り

嘉数区内にも高齢者は多数いると思います。人は誰しも徐々に衰えがやってきます。しかし衰え方は心身様々ですし、その背景は見えにくい為どのように寄り添うかは個々によって違うので難題です。高齢者見守りは重要課題であると捉えています。

私達が考える解決に向けたアプローチ

『公民館のサロン化』

上記課題を解決する案は人によって様々ですし、検討し行動するには限られた人数では限界があります。多くの区民が意見を出し合え、役割分担をし、チームとして行動を起こす事ができれば課題解決への道筋が見えてくるのではないのでしょうか。その為には公民館に人が集まり、気軽に意見交換ができる環境を作る事が大事だと考えます。

サロン（応接間）の様にリラックスできて、気の合う仲間がいて、何か楽しい事がありそうな公民館づくりです。そこで私たちは e-スポーツを通して公民館のサロン化を提案します。

どうやって人が集まる公民館サロンにする

『E-スポーツで行きたくなる公民館へ』

簡単に言うと e-スポーツはテレビゲームです。「互いに趣味の合うテレビゲームを一緒にやろう」という事です。ゲーム機をインターネットに繋がればきっと好みのゲームがあります。インターネットに繋がるゲーム機を公民館に準備してみんなで楽しみましょう。月曜日は囲碁と将棋、火曜日はパズルとトランプ、水曜日は野球とカーレース…日曜日は親子（または孫と）ボウリング大会を開催す

るのです。独りでやるのではなく同じゲームが好きな人が集まり大画面を一緒に見ながら、時には複数人が同時に参加してゲームに興じるのです。

気軽に行けて楽しめる雰囲気をつくるきっかけとしてe-スポーツは適していると考えます。ゲームは子供がするもの。難しそう。という意見もあると思いますが、簡単なゲームは数多くありますし、指先を動かす事は脳の活性化に有効で認知症予防になる事は証明されています。また画面が見えて指先が動けば足腰が弱くても参加ができます。多くの子供たちはもうゲームを始めていますので世代間交流としても有効だと考えます。

課題解決に向けた意見交換の場づくり

『三人寄れば文殊の知恵』

人が集まれば様々な知見が得られると考えます。e-スポーツを楽しんだ後に課題解決に向けた意見交換をします。脳が活性化しているので妙案が出るかもしれません。逆に大人も子供も嘉数高台公園に苗を植えた後にe-スポーツを行うのも手段として良いと考えます。高齢者見守りについても公民館に来る区民から高齢者の現状や背景が聞ける機会に恵まれたり、公民館から足が遠のいていた高齢者がe-スポーツの噂を聞いて来てくれる可能性もあります。

性別、年齢を問わず多くの方が公民館に足を向け、課題解決に向けた環境作りの一役を担ってもらう事がe-スポーツ導入の目的です。

E-スポーツ認知度向上の為に

『世代を超えた委員会の設置』

e-スポーツを活用した公民館のサロン化はその目的（課題解決）達成の為、嘉数区民による専門委員会の設立が望ましいです。自治会、老人会、青年会、育成会、子ども会、ていがね一会から有志を集めて設立し、e-スポーツ勉強会、広報活動、公民館環境整備、少数でのe-スポーツ大会開催など少しずつ活動の幅を広げていく事で息の長い活動ができると考えます。

環境整備と安定した運営のために

『予算と事業継続性』

e-スポーツをするためには最低でもゲーム機本体とモニターが1台ずつ必要です。可能ならインターネット環境もあれば尚良いでしょう。

初期費用	ゲーム機 (3台)	¥90,000		インターネット月額費用	¥4,700	②
	モニター(55in)3台	¥210,000				
	インターネット回線工事	¥30,000				
	ゲームソフト5本	¥50,000				
	小計	¥380,000	①	②×12か月	¥56,400	③
				① + ③	¥436,400	

また、予算の確保には宜野湾市が行っている「地域づくり事業」の活用が見込まれます。助成金は上限50万円までありますので自治会の予算を圧迫せずに実施が可能と考えます。

e-スポーツを通じた公民館のサロン化には適切なルールの構築が必要です（例：シューティングゲームは不可など）。きちんとしたルール作りができ、『人が集まる9カ条』をベースにして進めることで人が集まるサロンになれば、嘉数高台の活用、高齢者見守り、その他の課題解決に貢献できる事でしょう。

ありがとうございました。

～嘉数高台公園の活用と平和の語り部の継承～

D チーム☆ねだて☆

メンバー:伊波 義雄/仲井間 正江/上原 泉/津波 優子/翁長 笑花/田場 志穂

□提案する相手

- ・嘉数区自治会 ・自治会組織(老人会・青年会・子ども育成会・子ども会)
- ・嘉数中学校(学校内の自治会) ・平和の語り部の皆さん ・嘉数区の親子

□チームで設定した地域課題

私たち「チームねだて」のメンバーは、今回の講座や、語り部として活動しているチームメンバーとのフィールドワークを通して、「嘉数高台公園」が歴史を伝えていくための貴重な資源であること。そして、日常生活でのグランドゴルフや散歩、子どもたちのあそび場、自治会行事の場として、区民の身近な存在であるということが見えてきた。

また、色んな声がある中で、これまで区民の方向けの平和学習の実施が中々出来なかった現状や、平和の語り部が、現在3名という人数的にもとても厳しい現状であることを地域インタビュー等で知ることができた。

そこで、チームでの地域課題を【地元住民・子どもたち向けに嘉数高台公園での平和学習を行う機会がなかった。】と【平和の語り部の担い手不足】に設定し課題解決に向けた解決策と実現のためのプロセス作りに取り組んできた。

□解決策・取り組み

◇ 企画案 『夏休みのラジオ体操 × 平和学習のコラボ(o^-^o)』

◇ 目的 戦争の爪跡がの残る、貴重な資源(嘉数高台公園)を
知って・学んで・伝えて・継承する!!!

◇ いつ 毎年、夏休みの第3土曜日(仮)のラジオ体操終了後(年1回)
午前7時30分頃から午前10時頃まで

◇ どこで 嘉数高台公園

◇ 誰が 嘉数区の小学6年生と中学生が平和ガイドになる♪

◇ 誰と 平和の語り部の皆さん、自治会、自治会組織(老人会・青年会・子ども育成会・子ども会)、ラジオ体操に参加した子ども達、保護者

◇ 何を 実際高台公園での平和学習やDVDなどの映像を通して、ラジオ体操に参加している親子を対象に、地元の貴重な資源である嘉数高台公園の歴史(戦争のこと、現在の憩いの場になるまでの課程など)や貴重な資源が地域の中にあることに改めて気づき、地元愛を育てていきつかけづくりを行う。

また、平和ガイド(小学6年生、中学生)の取り組みを広げていくことで、語り部の担い手育成にも繋げていく。

◇ 予 算 地域づくり推進事業助成金の活用/宜野湾市市民協働推進課
平和学習用の教材作り(子ども向けパンフレット、DVD 作成等)

□嘉数区で実現するためのプロセス

- ①初回は自治会の呼びかけで、1 ページにある「□提案する相手」のメンバーで集まり、現在の地域課題やその解決に向けた取り組み(案)を伝える。
- ②各組織の役割分担を行う。
例えば・・子どもたちへの呼びかけ(育成会、中学校)、平和ガイドの育成(語り部)、朝の取り組みのため、おにぎりの提供(老人会) 場所提供(自治会)、安全管理、見守り(青年会、保護者)、プログラムの作成(中学生、自治会)
- ③企画の実施
- ④反省、振り返り
- ⑤次年度以降も継続的な開催

☆小学6年生、中学生へのアプローチについて

はじめに中学校内に存在する自治会組織(嘉数区)の役員の子どもたちに呼びかける。中学生には、平和学習の企画の段階から入ってもらう。

また、小学6年生は、地域の方と中学生が立てた企画に沿って、中学生とともに現在の語り部の方々からレクチャーを受け、6月の慰霊祭で参加住民(小規模)向けに平和ガイド活動を実施(1 回目・お披露目)、その後夏休み期間に小学5年生向けに平和ガイドの実施(2 回目・本番)を行う。

平和ガイドで活動した子どもたちには、自治会より「ボランティア証明書」を発行して、子どもたちの今後に役立てるようにする。

※「証明書」については、令和 2 年度より高校入試での AO 入試が始まるためより、興味をもつ子が増えるのでは???

☆平和学習の対象を親子に設定した理由

対象をラジオ体操に参加している親子に設定することで、子どもから大人まで、幅広い世代の参加が期待できる。うまく継続することができれば、口コミ等で情報が広がり、参加者が増えていくのではないかと考え、今回の対象設定を行った。



最後に、子どもたちが平和学習を通して学んだことを、自治会の敬老会等で発表する場を設けることで、子どもたちの成果が目に見える。また、発表を聞いた大人たちにも平和学習の内容を伝えることができる。また、自治会行事で発表会を行うと、親子の参加者も増え、自然と異世代交流に繋がるのではないかと考える。